

「市役所本庁舎は、中心市街地への配置が望ましい」

# 市役所本庁舎の再配置検討で 中間報告

行政機能再配置検討市民委員会（会長・豊口協さん）は七月二十八日、中間報告をまとめ森市長に提出しました。  
庁舎の分散配置や交通弱者の利便性など、市役所が抱える課題を検討した結果、中間報告では、①中心市街地への配置が望ましい、②コストを抑え市民の誇りとなる庁舎を、③まちづくりの観点からさらに検討を、との方向性が示されました。



現在の市役所が抱える  
問題点

- ▼利用者に分かりにくい：国や県からの事務移譲や合併による業務拡大で、本庁機能が七カ所に分散し分かりにくい
- ▼交通弱者に不便：現本庁舎は、バスや電車など公共交通が集中し便利な長岡駅から遠く、車を使えないお年寄りや障害のある人にとって利用しにくい
- ▼耐震性への不安：現本庁舎は、新耐震基準以前の昭和五十二年に建設され、防災拠点

としての耐震性に不安を抱えている。また、柳原分庁舎（中

## ①誰もが利用しやすい中心市街地に

再配置の候補地として検討されたのは、中心市街地、長岡操車場地区、幸町地区の三地区。このうち中間報告では、  
①市内のどこからもバスなどで行きやすい交通の結節点であり、車を使えない交通弱者も気軽に訪れることができること



再配置の候補地として検討されたのは、中心市街地、長岡操車場地区、幸町地区の三地区。

央公民館など）の老朽化も課題となっている

## ②駐車場は新規整備（後述）と既存駐車場の活用で対応

②駐車場は新規整備（後述）と既存駐車場の活用で対応できること  
③市民サービス向上のため、市政の情報発信や広聴・対話機能は、市民の集まりやすい場所に配置することなどの理由から、「誰もが利用しやすい中心市街地へ配置されるのが望ましい」としています。

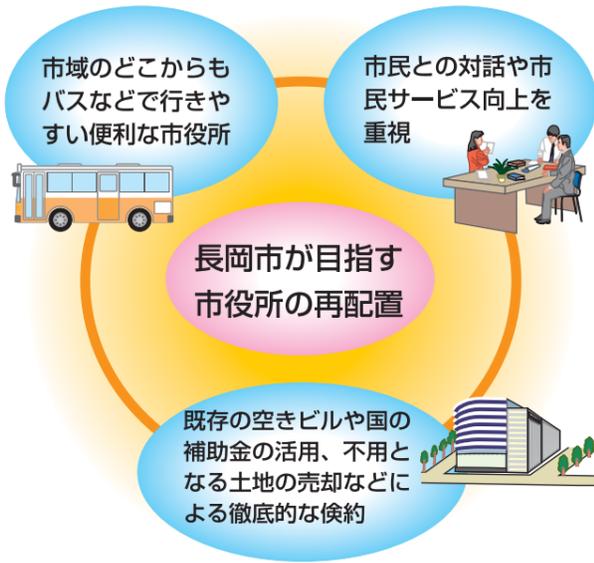
## ②コストを抑え市民の誇りとなる庁舎を

市役所本庁舎の再配置にあたって委員会は、徹底的な節約を求めています。  
中心市街地案では、  
①国の補助制度「まちづくり交付金」を活用すること  
②空きビルの活用が見込まれること  
③現本庁舎を改修して老朽化している柳原分庁舎の替わりとして利用し、不用となる土地は売却できること  
市役所本庁舎の再配置にあたって委員会は、徹底的な節約を求めています。  
中心市街地案では、  
①国の補助制度「まちづくり交付金」を活用すること  
②空きビルの活用が見込まれること  
③現本庁舎を改修して老朽化している柳原分庁舎の替わりとして利用し、不用となる土地は売却できること  
市役所本庁舎の再配置にあたって委員会は、徹底的な節約を求めています。  
中心市街地案では、  
①国の補助制度「まちづくり交付金」を活用すること  
②空きビルの活用が見込まれること  
③現本庁舎を改修して老朽化している柳原分庁舎の替わりとして利用し、不用となる土地は売却できること

### ◆3候補地のコスト比較（額はいずれも概算）

候補地	中心市街地（分散一括）		長岡操車場地区（一括集中）		幸町（第2庁舎建設）	
	項目	コスト（億円）	項目	コスト（億円）	項目	コスト（億円）
支出分①	庁舎整備・駐車場対策・現本庁舎耐震改修	105	庁舎整備・用地取得・現本庁舎耐震改修	110	第2庁舎整備・柳原分庁舎建替・現本庁舎耐震改修	75
節約分②	まちづくり交付金・合併特例債元金国庫還元分・柳原分庁舎、幸町舎、分室敷地売却益・現分室等賃借料	分散なら△70 一括なら△60	まちづくり交付金・合併特例債元金国庫還元分・柳原分庁舎、幸町舎、分室敷地売却益・現分室等賃借料	△50	例債国庫分等賃借料	△30
差引コスト（億円）	分散35 一括45		60		45	

### ＜市民委員会での検討の方針＞



### 会長に聞く 豊口 協さん(長岡造形大学理事長)



#### 「サービスを基本とした新しい市役所の姿を」

委員会では「行政サービスと市民を密接に結びつけることができる、合併新市にふさわしい便利な市役所」というテーマで、委員が自由に発想し、意見を交換する形をとりながら検討が進められました。

高齢者が増えていく中、車を運転する人も少ない人も来庁しやすく最も集まりやすい場所は、長い歴史がある大手通りだと思います。公共サービスの要である市役所が中心市街地に配置されることは、まちづくりにも大きな効果があると考えます。

新しい市役所は、建物ありきで考えるのではなく、市民が行きやすく、入りやすいという「サービス」のあり方を基本に考えることが大切です。駐車場やバスのシステムなど、検討していかなければならない課題もありますが、今回の市役所の再配置が、まち全体の交通システムを見直していくきっかけにもなると思います。

海外では、交通の便がよく集まりやすい中心部に行政機能が分布し、市民と一体でまちづくりをしている事例が見られます。市役所本庁舎の再配置が、かつての日本の行政構造から脱却した国際的な行政システムに変わっていく、代表的な動きとして注目されるとすばらしいと思います。

### みなさんのご意見をお聞かせください！

#### ■「市役所機能再配置に関する意見交換会」を開催します

今回の中間報告を踏まえて、市民のみなさんと市役所移転について語り合います。  
入場無料。直接会場へどうぞ。  
日時＝9月9日(土)午後6時30分～8時  
会場＝厚生会館中ホール  
定員＝150人(先着)  
☎行政管理課 ☎39・2208

#### ■中間報告の詳細はホームページに

中間報告の詳細内容を長岡市ホームページ (<http://www.city.nagaoka.niigata.jp>) に掲載しています。また、市役所1階市民情報ラウンジ、市民センター、厚生会館、各支所地域振興課で閲覧できます。  
ご意見は ☎940-8501 (住所記入不要) 長岡市行政管理課 ☎39・2208、FAX39・2272、Eメール [gyoukan@city.nagaoka.lg.jp](mailto:gyoukan@city.nagaoka.lg.jp) (住所、氏名を明記してください)



▲個性的な「まちなかショップ」にぜひどうぞ

### ③まちづくりの観点からさらに検討が必要

これまで主に機能面から検討してきた委員会としては中間報告では、  
①平成十五年度に中心市街地構造改革会議で、中心市街地の活性化のために「公共機能のまちなか回帰」が提言されていること  
②すでに市民センターや戦災資料館、まちなか考房があり、今後、集会やスポーツ、子育て支援などの機能が配

置される計画があること  
③社会福祉センターなど既存の市民利用施設の機能についても、建て替え時期などをとらえ、中心市街地での立地を視野に入れることを踏まえ「一括配置、分割配置どちらも可能であるが、まちづくりの観点からさらに検討を」と提言。今後、多方面の意見を参考にしながら、波及効果や相乗効果を高める具体的な計画策定に結びつけるよう要望しています。

### ミニニュース 『まちなかショップ』が大手通りにオープン！

中心市街地で商売を始める新規経営者を支援する「チャレンジショップ」が七月二十五日、大手通りの「まちなか考房」一階に『まちなかショップ』としてリニューアルオープンしました。

この事業は、出店者に約二坪の店舗スペースを一年間格安で提供し、経営ノウハウを習得してもらおうというもの。今回はより多くの人に訪れてもらい、まちなかのにぎわいづくりを進めようとして以前より長岡駅寄りに店の場所を移しました。出店したのは、美容、陶器、ファッションの三店舗。若者向けの衣料を販売する須藤悠さんは、「これまで県内になかったファッションを長岡の若者に広めたい」と抱負を語っていました。営業時間 午前10時30分～午後6時30分(土・日・祝日は午後六時まで) 定休日 月曜日